

# 『サクソフォン奏者埴美里とクラリネット奏者宮子雅子の

## W 講師によるマスタークラス&コンサート』

### 《概要》

サクソフォン奏者の埴美里と、クラリネット奏者 宮子雅子の W 講師による「マスタークラス&コンサート」を企画・開催する。宮子雅子はフランス、パリ・ギャルド・レピュブリケーヌ管弦楽団に初の外国人として入団し活躍中のクラリネット奏者である。今回で第3回目を迎える本企画は、生粋のフレンチ・スタイルによる奏法でオリジナルからアレンジものまで2人の楽器奏者の視点から指導する。その規模、歴史、高い水準からも、フランス国外で行われている最も重要なフランス音楽教育の場と言えるだろう。

### 《スケジュール》

2022年8月 ノナカ・アンナホールにて開催予定（4月中に日程決定予定）。

### 《目的》

- ・近年、サクソフォンを専門的に勉強する学生がクラリネットのオリジナル作品にも取り組むようになってきた。今回はクラリネット奏者の宮子さんの視点から、本格的な指導を行う。
  - ・これまで例にない「W講師」というマスタークラスをさらに拡大・発展させたい。
  - ・これからフランスに留学する学生にとって留学前の準備期間として適的確な指導を行う。
  - ・フランスの伝統的なスタイル（サクソフォンとクラリネットはほぼ同じような木管の音色がすること）の奏法、それぞれ講師の特性を活かしたレッスンを行う。
- どのような初級の楽曲レッスンにおいても、目指すのは芸術として追及された「本当の音」である。お手本として、最高の技術と最高の楽器の音色を目の当たりにしていただく。そして、その音を実現するためにはどのように練習していけばいいかを、特に若い受講生に感じて頂きたい。
- ・フランスの「フォルマシオン・ミュージカル（フランスで主流の音楽教育法）」の考え方を取り入れながら、音楽に様々な側面から触れられる時間を展開していく。世界の「聴き方」を育て、自分が理想とする音の世界が「聴こえる」ことが表現の主であり、楽器が「弾ける」というのはむしろ付随的な事柄に過ぎなく、あらゆる形でアンサンブルの経験を促し、コミュニケーション・ツールとしての音楽の本質を考えてもらいたい。「自分の考えで弾けない」「習っていない曲は弾けない」ということにならないように、楽器が「聴こえる」ようになるまで、また「聴こえる」ことを楽器にできるようになるまで、一つ一つ学んでもらう。

## 《プロフィール》

はなわみさと  
埴美里 (サクソフォン奏者)

高度な技術を伴い、類い稀な感受性と深みを持つスーパー・ソリスト。前田記念奨学生奨学金を授与され渡仏。U.F.A.M.国際音楽コンクール室内楽部門(フランス)を審査員全員一致で優勝、併せて審査員特別賞受賞。レオポルド・ベラン国際音楽コンクール第1位受賞。North International Music Competition サクソフォン部門第1位、ワールドミュージックコンペティション第3位(スペイン)。韓国・釜山で行われた釜山国際音楽祭コンチェルトコンペティションにて特別賞を受賞。ヒナステラ国際音楽コンクール第1位、モスクワ国際音楽コンクール第2位、その他、海外の様々なコンクールで入賞。セルジー・ポントワーズ音楽院を最優秀の成績で卒業。カンブレ音楽院最高課程を審査員満場一致の称賛付きの首席で卒業。モーリス・ラヴェル音楽院室内楽科で研鑽を積む。サクソフォンを原博巳、ジャン＝イヴ・フルモー、ジュリアン・プティ、クリスチャン・ヴィルトゥ、ベアトリス・レイベル、ヴァンサン・ダヴィッド、パリ管首席フルート奏者ヴァンサン・リュカの各氏に師事。これまでに日本センチュリー響、ウィーン響、イスラエル・ソリスト・オーケストラと共演。ウィーン楽友協会にて現地のオーケストラとサン＝サーンス《序奏とロンド・カプリチオーソ》を共演。ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、NHK-FM『リサイタル・ノヴァ』等に出演。セルマー・パリとヴァンドレン・パリの所属アーティスト。オクタヴィアレコードより『エディット・ピアフを讃えて』『ロンド・カプリチオーソ』をリリース。2019年10月、「鳥」にちなんだ作品をフューチャーしたアメリカ・リサイタルツアーをピッツバーグ、ガリポリス、コロンバス等の都市で開催。文化庁海外派遣研修制度でスペインに短期留学。カサレス音楽院でコンフェランスを、パルマサクソフォンコンGRESの専任講師。ニューヨークヤングアーティストアワードで優勝し、2022年春にはニューヨーク・カーネギーホールでのリサイタルを予定している。

埴美里公式ホームページ

<https://misatosax.wixsite.com/misatosax->